

平成 26 年度生徒指導集中対策プロジェクトの進捗状況について

このことについて、別紙のとおり報告します。

平成 26 年 11 月 14 日

広島県教育委員会教育長 下崎 邦明

平成26年度 生徒指導集中対策プロジェクトの進捗状況について

1 生徒指導集中対策指定校（23校）の暴力行為発生件数について

9月末現在、指定校における目標対象年度の暴力行為発生件数は、スクールサポーター派遣校では55.1%の減少であり、目標値（80%減）には達していない。また、スクールサポーター未派遣校では73.1%の減少であり、目標値（50%減）に達しており成果がでている。

《生徒指導集中対策指定校に係る暴力行為発生件数及び前年度（継続校 H24）比》〔9月末現在〕

			H26	H25 (継続校 H24)	H26-H25 (継続校 H24)		目標値 (対前年度比) 継続校 H24
	新規校数	継続校数					
SS派遣校	4※	9	53	118	△65	55.1%減	80%減
SS未派遣校	8	2	25	93	△68	73.1%減	50%減
合計	12	11	78	211	△133	63.0%減	—

※市スクールサポーターである竹原市を含む

2 取組の成果

(1) 「生徒指導」

- ア 課題を抱える学級や授業については、授業中の巡回指導（SS含む）やティーム・ティーチングで指導することで、問題行動の未然防止になっている。
- イ これまでの生徒指導規程を見直し、レベルアップした児童・生徒像を示すことで、身だしなみや生活態度が向上し、学校全体が活気づいてきた。また、問題行動への対応マニュアルも全教職員に周知され、指導が統一化されている。

(2) 「学習指導」

- ア 授業改善担当者を中心とした授業改善プロジェクトチームが、「めあて」とめあてに対応した「まとめ」の一体化を図るための学校独自の授業モデルを全職員に示すことができている。
- イ 授業改善担当者が中心となり、児童生徒の学習のつまずきの実態を分析し、授業研究とともに職員研修を実施することで、基礎・基本の定着に向けた具体策を実践している。

(3) 「学校経営」

- ア 校長がリーダーシップを発揮し、問題解決場面（警察連携等）で明確な意思決定が的確に行えている。
- イ 校長が各主任に対して的確に指示・指導を行うことで、分掌間が円滑に機能し、生徒指導と学習指導の両面の取組が効果的に実施されている。

3 今後の重点的な取組

(1) 問題行動を繰り返す生徒への支援

逮捕に至った生徒や少年鑑別所送致になった生徒が学校に復帰した際適切な支援が行えるよう、学校や保護者、各関係機関とともにケース会議を開き、学校適応プログラムを作成し、継続的に指導していく。

(2) 問題行動への未然防止

挨拶運動や奉仕活動等を積極的に取り入れ、成就感や達成感を高めることで、学校への帰属意識や自己肯定感を高め、集団とのつながりを強くする活動を計画的に行うよう指導していく。